

環境コミュニケーションを推進します

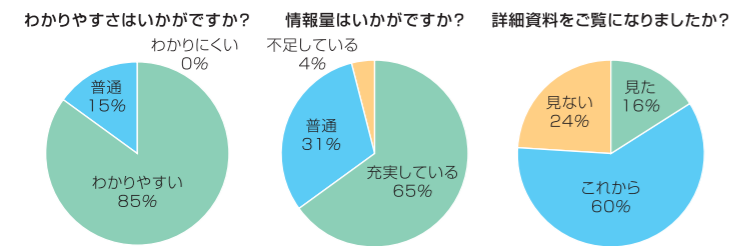
宝酒造では、社会や市民の皆様の声におこたえする環境活動を行うために、緑字企業報告書や展示会、ホームページなどを通じて、双方向のコミュニケーション活動を推進しています。また、NPOとの協働や産官学の連携にも努めています。

■緑字決算開示と緑字企業報告書の発行

宝酒造では、「ECO(エコ)」という独自の指標を用いて、地球環境に関する収支決算「緑字決算」を開示しています。緑字決算を掲載している「緑字企業報告書」は、2005年にリニューアルし、地球だけでなく、様々なステークホルダーの皆様とのコミュニケーションについてお伝えしています。また、同封のアンケートにご回答いただいたお客様の声は、環境活動や次年度の報告書作成の参考にしています。

2005年度は14,668部配布し、2006年3月までに46通のアンケートのご回答をいただきました。

2005年版アンケート結果



■ホームページでのさまざまな取り組み

宝酒造の環境サイト「環境への取り組み」は2005年4月にリニューアルし、常に新しい情報をお届けできるように運営しています。2006年4月には「環境への取り組み」内のエコキッズコーナーを独立させ「こどもタカラ」として新設。環境だけでなくタカラ本みりんの工場見学サイトへのリンクを行うなど、宝酒造の総合的な子供向けサイトになりました。

ほかにも、環境ポータルサイト「環境goo」の協力を得て「お米とお酒の学校ブログ」を開設するなど、より新鮮な情報を提供するとともに、双方向のコミュニケーションを進めています。



■ N:こどもタカラ

■エコプロダクツ展への出展

宝酒造では、毎年東京ビックサイトで開催される日本最大の環境に配慮した製品の展示会「エコプロダクツ展」に出展し、「はかり売り」をはじめとするエコプロダクツを紹介しています。2005年は地球温暖化防止のための「京都議定書」が発効したことから、CO₂削減につながる京都発のNPOの取り組みもブース内で紹介しました。宝酒造ブース内のパネルを読んでクイズに答える「宝酒造環境クイズ」への参加者は、3日間で5,000人にのぼり、大変ご好評いただきました。



■NPOと協働での取り組み

もっと市民の皆様身近な企業でありたいと考え、NPOの方々の協力を得てさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。

- ◆「NPO法人 森の学校」や「千葉県自然観察指導員協議会」の方々の協力を得て「お米とお酒の学校」を実施しました。
- ◆「日本環境倶楽部」との協働で作成した飲み物容器のリサイクル啓発絵本「TaKaRaリサイクルロード」を、全国の小中学校の希望者に配布しています。
- ◆京都の「NPO法人 環境共生都市推進協会」のベロタクシー、「芝生スクール京都」の取り組みをエコプロダクツ展の宝酒造ブース内で展示、紹介しました。
- ◆当報告書の第三者意見を2005年は「京都CSR研究会」(研究者、企業CSR担当者、NPO、学生の4名)からいただきました。

■社内コミュニケーション

宝酒造では新入社員研修のプログラムに環境教育を組み込んでいることをはじめとして、毎年ISO14001に基づく環境教育を実施しています。また、TaKaRaグループ報に環境に関する情報を掲載したり、「お米とお酒の学校」を社員ボランティアで運営するなど、社員への環境啓発に力を入れています。



参加者をサポートする当社社員(黄色いリボン着用)



■市民・研究者・行政等とのコミュニケーション

社会全体で環境問題を解決するためには、市民の皆様をはじめとして産、官、学などが連携することが重要です。宝酒造では、業界および他業界との交流、大学での講義や学生からのインタビュー対応、インターネット、報告書、展示会などさまざまな方法を通じて双方向コミュニケーションを図っています。

- ◆(社)長野県産業環境保全協会総会で講演
- ◆(財)素材センター環境セミナーで講演
- ◆龍谷大学 授業で講演
- ◆龍谷大学法学部ゼミ工場見学対応
- ◆立命館大学学生委員会工場見学対応
- ◆大阪産業大学学生インタビュー対応
- ◆東北大学大学院学生インタビュー対応
- ◆日本自然保護協会学生リアルネイチャーセミナー パネラー
- ◆きょうとNPOセンター「企業の社会貢献とNPO」シンポジウム パネラー
- ◆企業とNPOの子育て支援協働推進セミナー2006・大阪 パネラー
- ◆京都大学環境報告書 ステークホルダー委員会 委員
- ◆びっくろ!エコ100選企画委員会 委員

■環境会計

宝酒造の環境コストの中では、公害防止設備の投資やメンテナンス費用、CO₂削減のための投資、工場廃棄物リサイクル費用等の生産部門の環境負荷削減コストである「事業エリア内コスト」の割合が最も高い。そのほかにISO14001の運用費用や環境広告などの「管理活動コスト」や「社会活動コスト」などありますが、再商品化委託費用やリターンブル容器回収費用等の容器包装リサイクルに関わる「上・下流コスト」の割合が高いのが特徴です。

■ 9:その他の環境会計

(集計範囲:宝酒造単体 対象期間:2005年4月1日~2006年3月31日 単位:千円)

分類	主な取組の内容	投資額	費用額	
(1) 事業エリア内コスト		417,034	676,306	
内 訳	①公害防止コスト	排水処理設備更新、ボイラー、メンテナンス費用、下水道使用料、賦課金等	76,038	298,760
	②地球環境保全コスト	ガスボイラー、ポンプインバーター、CNGフォークリフト等	38,414	31,532
	③資源循環コスト	資源の効率的利用、産業廃棄物のリサイクル・処理等	302,582	346,014
(2) 上・下流コスト	再商品化委託費用、リターンブル容器回収、はかり売りタンク等	6,090	332,079	
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの整備・運用、環境広告等	5,250	299,352	
(4) 研究開発コスト	商品の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発コスト	0	384	
(5) 社会活動コスト	ハーモニストファンド、ベロタクシー、芝生スクール京都、お米とお酒の学校等	0	24,435	
(6) 環境損傷対応コスト	産業廃棄物適正処理推進基金	0	60	
合 計		428,374	1,332,616	